

# 日本工学教育協会 第60回年次大会 参加報告

技術第二班 一条 洋和

## 1. はじめに

平成24年8月22日から24日に、日本工学教育協会の年次大会が、芝浦工業大学の豊洲キャンパスで開催された。その中で行われた工学教育研究講演会および特別講演会に参加し、講演を聴講してきたので報告する。



写真1 芝浦工業大学 豊洲キャンパス



写真2 工学教育研究講演会 会場

## 2. 参加日程

<1日目>

- |             |   |
|-------------|---|
| 9:00-10:30  | ものづくり教育-I                                 |
| 10:45-12:15 | 工学教育の個性化・活性化-II<br>体系的教育課程の構成-II          |
| 13:00-14:10 | 開会式・表彰式                                   |
| 14:30-17:30 | 特別講演<br>「工学教育の現状と進むべき道」<br>「健康づくり経営と人材育成」 |

<2日目>

- |             |  |
|-------------|--|
| 9:00-10:30  | ものづくり教育-III  |
| 10:45-12:15 | 学生の学習活動事例-IV<br>専門科目の講義・演習-IV  |
| 13:00-14:00 | 特別講演<br>「The American Society for Engineering<br>Education and the Morrill Act of 1862」<br>「Accreditation of Engineering Education<br>- Washington Accord and JABEE -」 |
| 14:15-14:45 | 工学教育の個性化・活性化-V   |

## 3. 講演内容

写真2のように、各講義室に分かれて、工学教育に関する講演が行われた。幾つかの講演の内容について示す。

### ● PBL教育の実例

高専や大学で行われているPBL教育の実例について幾つかの講演を聴講した。ロボットを題材にしているところでは、部品を実店舗に調達に行ったり、プロジェクトを進めつつ理解が足りない部分を講義で補ったり、コンテストを実施したりと、学生の意欲を高める様々な工夫がされていた。教える側での教材研究がしっかり行われていると感じた。

### ● 高専機構によるモデルコアカリキュラム

策定経緯・到達レベルの設定・教育モデルの3部からなる講演を聴講した。このカリキュラムが、高校での学習分野への対応や、エンジニアリングデザイン能力の育成など、様々な面を考慮した上で長年練られてきたものであることを理解できた。特に教育モデルについては、既に事例紹介のパンフレットを各高専に配布していることが示され、改めて読んでおく必要があると感じた。また、技術職員としてもこのカリキュラムを把握し、学生指導に反映させる必要があると感じた。

## 4. おわりに

他の大学や高専における工学教育の取り組み状況や、ものづくりの実例、また教育における考え方などさまざまな視点での講演を聞くことができた。それぞれにおいて、教育方法だけでなく、目標設定や評価手法にも工夫が現れていることを実感できた。本校でのこれからのものづくり教育に生かしていきたい。